5　民話や子ども達の歌等

子どもの遊びの呼び方等の聴き取りの中で、地域に伝わる民話や子ども達の歌、数え歌などを次の通り併せて採録した。

(1) 民話

① 石大神の天狗とひょう太郎

昔、ひょう太郎という猟師がいて、下の町から小岐須に来て石大神に行った。

すると山の岩の上に天狗がいて、ひょう太郎はそれを鳥と思い鉄砲で撃った。

しかし、弾が当たったかどうかわからないまま、それは遠くへ逃げて行ってしまった。

その後、ひょう太郎は小岐須に降りて、宿に入り「石大神で鳥に逃げられてしまった」と言って、寝てしまった。

真夜中に、家の外から誰かが「ひょう太郎、御用」と呼ぼった。

それを聞いたひょう太郎は「何の御用や」と言いながら外へ出て行った。

外で呼ぼったのは昼間の天狗で、天狗はひょう太郎をしょっつかんで、石大神の岩の上へ連れて行って、股を割いて岩に引っ掛けて行ってしまった。　　（西庄内町上野）

② 小岐須の山の神さん

昔、村人が小岐須の山に炭焼きに入り、夜となり山の中の小屋で一夜を過ごすことになった。

夜半になり、山では山中の木々が倒れるばかりの大風が吹き大きく荒れた。村人は恐くて、小屋の中で何事も起こらないよう祈るばかりであった。

朝になり外に出ると、何事もなかったように静かな森が広がっていた。

夜に小岐須の山の男の神さんが伊吹山の女の神さんに会いに行くのに大風を吹かせたという話であった。　　（小岐須町）

③ おばぁの尻ぶた

昔、おじぃとおばぁがおって、おじぃが山へ猟に行った。

おじぃは山で鳩を撃って戻り、おばぁにそれを「炊いといてくれ」と言って、また山に猟に出て行った。

おばぁは鳩を炊き、一口食べたところ、それはとても美味しかった。そのため、また一口と食べるうちに、気が付いたら全部食べてしまっていた。

おじぃが帰ってきたら怒られると思い、どうしょうかと考えた。 つしへ上がり、自分の尻ぶた（お尻の肉）を切って、降りてきて、それを炊いておじぃの帰りを待っていた。

おじぃが帰ってきたので、それを食べさしたところ、おじぃは「苦いのー」と言った。

おばぁは「わしの尻けつやで苦いわのー」と話した。　　（西庄内町上野）

④ カラスの耳、トンビの目

昔々のある日、カラスが野登山（ののぼりさん）のガンザサの上を飛んでいると、ガッサンという大きな音がした。それを聞いたカラスは山を探したが、いくら探しても何も見つけることができなかった。

それで、トンビにそれを探してもらうよう頼んだ。トンビは野登山に探しに行き、落

ち葉の上に蚊の足を見つけ、「いくら探してもこれしか見つからなかった」と言って持ってきた。（西庄内町上野）

⑤ さかさ川の水神さん

昔、村人がさかさ川をまっすぐにしようとして工事を始めたら、川の斜面の岩が赤くなった。

それを見た村人は「水神（すいじん）さんが怒って、岩から血を流した」と言って、川をまっすぐにするのを止めた。

そのため、さかさ川は今も昔のまま、大きく曲がって流れている。（安坂山町安楽）

⑥ 醍醐天皇の野登山登頂と安楽越え

昔、三本足のニワトリが醍醐天皇を案内し野登山に登り、大きな岩の所まで来た。それは伊勢の国を一望できる岩で、天皇はその岩を「国見岩」と名付けた。

野登山から降りてきた天皇は出会った村人に「近江の国はどちらか」と尋ねると、その村人は安楽の方に向かって案内した。

途中、村のはずれに大きな松があり、天皇は馬を降りてそこで水を飲んだ。村人は馬をその松につなぎ、大きなたらいで馬に水を飲ませた。そのことから、村人は天皇から「松井」という姓を賜った。

また、別の村人は天皇を案内して馬道で安楽を超えた。そのことから、その村人は天皇から「馬路」という姓を賜った。

この二つの姓が、野登の始まりの姓となった。（安坂山町安楽）

⑦ 野登山（ののぼりさん）の竜神沼

野登山の下に竜が住むという沼があって、そこは「人が入ると嵐が来る」と言った。

また、4 月 7 日の野登りさんの縁日に急に天気が悪くなると、「誰かがそこに迷い込んだ」と言った。（西庄内町南畑）

⑧ ゆきおんば

昔、山にゆきおんばがいて、子ども達が悪いことをすると捕まえに来ると言った。

ある日、村の子供が悪いことをしたことから、ゆきおんばが来て捕まえ、背負った籠に入れて山に帰っていった。

ゆきおんばは、山へ帰る途中、疲れたので一休みをすることとした。

岩に腰を下ろして一休みしている間に、子どもは籠からこっそりと逃げ出し、村へ戻っていってしまった。

ゆきおんばは、それに気づかず、一休みしたら「軽ーなった、軽ーなった」と言いながら、山に帰っていった。（関町福徳（郡外））

(2) 子ども達の歌

① 遊びの歌

ア．あんたがったどこさ

あんたがったどこさ　肥後さ　肥後どこさ　熊本さ
熊本どこさ　船場さ　船場山にはタヌキがおってさ
それを猟師が鉄砲で撃ってさ
煮てさ　焼いてさ　食ってさ
ああ　うまかったとさ　（白木町、住吉町、辺法寺町）

イ．オシアイゴンボの歌

・ おしあいごんぼ 押されて泣くな 押されて泣くのは弱虫 毛虫　（下加太）
・ おしあいごんぼ 押されて泣くな 押されて泣くは泣き虫 毛虫　（関町沓掛）
・ おしあいごんぼ 押しおうて泣くな 押されて泣くは泣き虫 毛虫
（白木町、御薗町）
・ おしあいごんぼギュウギュウギュウ　（庄野町）

ウ．お手玉の歌

a いちとめて

・ いちとめて　２とめて　３とめて　（西庄内町南畑）
（掌に小石をのせ、手の甲に乗せ、さらに掌でつかむ）

b おじゃみ～

・ おじゃみおっふる　三っつ飛ばし四っつ寄せて　五つで背中で受けよ
ひとよせ　ふたよせ　みよせ　なってきな　とんきゅ　（庄野町）

c どんつばき～

・ どんつばき、花が咲く
花が咲かいで、実がなるか
ひぃ　ふぅ　みぃ　よ　いつむに　ななやに　ここととんご
まず一回　かしました。　（下庄町）
・1) どんつばき　花が咲く
花が咲かずに実がなるか
ひい　ふう　みい　よ　いつむに　ななやに　ここととんご
毎朝　一回かしました
2) どんつばき　ひらいたかどん　すぼんだかどん　？？
とんとのおやどの泥神様は　？？
ここは桑名は箱根の
ひい　ふう　みい　よ　いつむに　ななやに　ここととんご
毎朝　一回かしました　（阿野田町）

エ．かごめかごめ

かごめ　かごめ　籠の中の鳥は　いついつでやる
夜明けの晩に　鶴と亀がすーべった
後ろの正面だあーれ　（亀山中心、辺法寺町ほか）

オ．草履隠しのうた

・ ぞーりーかくしじゅうれんぼ　橋の下のネズミは
草履を咥えてチュウチュウチュ　ここを渡らんものはげんこ１０７つ（小岐須町）
・ ぞーりーかくしちゅうれんぼ　橋の下のネズミは

草履を咥えてチュッチュクチュ　チュッチュク饅頭誰がくた
誰もくわへんわしがくた　隣のかみさん三味線屋　（関町中心）

カ．タコタコ上がれ

タコタコ上がれ　天まで上がれ　（白木町、辺法寺町）

キ．チーチーパッパ（：ケンパ）の歌

ちーちーぱっぱ　ちーぱっぱ　ちのちのぱ　（上田町他）
けんぱけんぱ　けんぱっぱ　（上田町他）

ク．なわとびの歌

お次のお方　お入りください（紐の回し手）
（跳びながら飛ぶ二人がジャンケンをし）
負けたお方は出てください（紐の回し手）
（出た人が回し手と交代し、繰り返す）　（下庄町）

ケ．ボンサンボンサン（：坊さん坊さん）どこ行くの

・ 周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
中）　おらの山に穂拾いに（ホーヒロイニ）
周）　穂をなんぼ拾た
中）　いっそくさんぼ拾た
周）　その穂をどした
中）　挽いて挽いて粉にして　炊いて炊いて糊にして
周）　その糊どした
中）　おらの山にほったった　（東庄内町）

・ 周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
中）　あの山越えて酒買いに
周）　私も一緒に連れてんか
中）　お前は邪魔やで連れてかへん
周）　このかんかん坊主くそ坊主
中）　雨がふったらよう行かん　（一身田町（郡外））

・ 周）　ボンさん　ボンさん　どこ行くの
中）　山を越えて　里へ行く　（安坂山町坂本）

コ．ボンサンボンサンどこ行くの（オニの後ろの人をあてる遊び）

・ 周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
中）　あの山越えて　谷越えて　酢買いに
周）　私も一緒に連れてって
中）　お前が行ったら邪魔になる
周）　このかんかん坊主　くそ坊主　後ろの正面だあれ　（下大久保町）

・ 周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
中）　あの山越えて酢買いに
周）　私も一緒に連れしゃんせ
中）　お前が来ると邪魔になる
周）　このかんかん坊主　くぞ坊主　後の正面だあれ

（関町坂下、白木町、津賀町、高塚町、弓削町、安坂山町
池山、西庄内町南畑、小岐須町、山本町、南小松町）

・　周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
　中）　おーけの輪のそーこ抜け
　周）　だーれが抜いたか　桶屋の丁稚
　中）　まどえまどえ
　周）　後の正面だあれ　（小岐須町、山本町）

・　周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
　中）　私は田んぼの稲刈りに　あの山越えて　野越えて
　周）　（不明）
　中）　（不明）
　周）後の正面だあれ　（西庄内町南畑）

・　周）　ぼんさん　ぼんさんどこ行くの
　中）　あの山越えて酒買いに
　周）　私も一緒に連れしゃんせ
　中）　お前が来ると邪魔になる
　周）　このかんかん坊主に殴られた　後の正面だあれ　（汲川原町）

・　周）　ぼんさん　ぼんさん　どこ行くの
　中）　あの橋渡って　酢買いに　（太森町岩森、太田）

サ．　郵便屋さん走りゃんせ

・　郵便屋さん走りゃんせ　（共通）
　もうそろそろ　十二時や
　一時　二時　三時　四時　おしまい　（辺法寺町、住吉）
・→→→一時　二時　三時　四時でとうとう日が暮れた　（亀山中心）

・→→もうそろそろ　十二時じゃ
　えっさか　もっさか　ひーらひら　（石薬師町）
・→→→えっさか　もっさか　びーりびり　（下庄町）
・→→→葉書が落ちたで拾いましょ
　一枚　二枚　三枚　四枚　五枚　六枚　七枚　八枚　九枚　十枚
　とうとう拾って帰りましょ　（西庄内町南畑）

② 数え歌

ア．一かく　二かく　三かく　四角

一かく　二かく　三かく　四角
四角は豆腐　豆腐は白い　白いは兎

兎は跳ねる　跳ねるはカエル　カエルは青い
青いはネブカ　ネブカは滑る　滑るは氷
氷は割れる　われら大日本帝国バンザイ　（白木町）

イ．数え唄

1　一番楽しいお正月　　2　学校へ集まる四方拝
3　はいはいもしもし電話口　　4　口から病は入れやすい
5　安い鉛筆じき折れる　　6　留守居を頼むおばあさん
7　３が９倍で２７　　8　七里ケ浜に由比ケ浜
9　ハマグリ取るのは潮干狩り　　10　がりがり食べるは御煎餅
11　べいべい言葉は止めなさい　　12　咲いたツツジをぽんと打つ
13　美しいのは花の山　　14　山から小僧が泣いてきた
15　北と南に海がある　　16　有平糖に金平糖
17　豆腐は四角で柔らかい　　18　海軍、陸軍、飛行隊
19　台湾年中暑いとこ　　20　床から這い出す朝寝坊
21　坊やはあんよがお上手だ　　22　だんだん近寄る沖の船
23　船の中には七福神　　24　尋常科が済んだら高等科
25　化学を習うは日本一　（→１へ戻る）　（住山町）

ウ．数え歌（手まり唄）

1　一列らんぱん　破裂して　　2　日露戦争始まった
3　さっさと逃げるはロシアの兵　　4　死んでも尽くすは日本の兵
5　五万の兵でひきつれて　　6　六人残して皆殺す
7　７月８日の戦いは　　8　ハルピンまでも攻め行きて
9　クロパトキンの首を取り　　10　東郷大将　万々歳　（太岡寺町）

エ．一番はじめは一の宮

○ <u>一番はじめは一の宮　二は日光東照宮</u>　（共通）
三は佐倉の宗五郎　四は（また）信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ村の天神さん（又は村々の天神さん）
七つ成田の不動さん　八つ八幡（やわた）の八幡さん
九つ高野の弘法さん　十で所の氏神さん　（阿野田町、下庄町）

・ →→→ 七つ何にもないように　八つ八幡の八幡さん
九つ高野の弘法さん　十で所の氏神様　（芸濃町楠原（郡外））

・ →→→ 七つ成田の不動さん　八つ大和の八幡宮
九つ高野の高野山　十で東京？？？　（白木町）

・ →→ 五つ出雲の大社　六つ無病の息災
七つ成田の不動さん　八つ大和の不動さん
九つ高野の弘法さん　十でとうとう収まった　（野村町）

・ →→ 五つ出雲の大社　六つ村の鎮守様
七つ成田の不動さん　八つ大和の八幡宮
九つ高野の弘法さん　十で所の氏神さん　（井尻町）

・ → 三は桜の吉野山　四は（また）信濃の善光寺

五ついつもの社で遊びましょ　六つ村の鎮守様
七つ成田の不動さん　八つ大和の法隆寺
九つ高野の弘法さん　十で東京の泉岳寺　（辺法寺町）

・ → 三は桜の吉野山　四はまた信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ村々鎮守さん
七つ難波の不動さん　八つ八幡の八幡さん
九つ高野の弘法寺　十で所の氏神さん　（西庄内町北畑）

・ → 三は讃岐の金毘羅さん、四は（また）信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ村々鎮守様
七つ成田の不動さん　八つ八幡の八幡宮
九つ高野の弘法寺　十で東京の宇治神さん　（住吉）

・ → 三は桜の咲き時分　四は（また）信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ昔の天神さん
七つ成田の不動さん　八つ大和の八幡宮
九つ高野の高野山　十で東京の東照宮　（東庄内町）

<u>○　一番はじめは一の宮　二は日光東照宮</u>

→ 三は佐倉の宗五郎　四は信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ村々氏神さん
七つ成田の不動さん　八つ大和の八幡さん
九つ高野の弘法寺　十で所の氏神さん
これほど信心かけたのに　浪子（ナミコ）の病気は治らずに
武男（タケオ）が戦（イクサ）に行く時は
白い白い真っ白な　ハンカチ振り振り　ねえあなた
早く帰ってきてちょうだい
ポッポッポーと出る汽車は、武男と浪子の分かれ汽車
再び会えない汽車の窓　鳴いて血を吐くホトトギス　（三寺町）

・ → 三は讃岐の吉野山　四はまた信濃の善光寺
五つ出雲の大社　六つ村々天神さん
七つ名高い名古屋城　八つ八幡の八幡宮
九つ高野の弘法さん　十んご 所の氏神さん
これほど信心させたなら　浪子の病気は治らのか
武男が戦に行く時は
白い白い真っ白な　ハンカチ振り振り　ねえあなた
早く帰ってくださいね
ゴーゴーゴーと出る汽車は　武男と浪子の分かれ汽車
再び会えない汽車の窓　鳴いて血を吐くホトトギス　（庄野町）

③ 行事の歌

ア．虫の送りの歌

カンカンバーバー出てけ　田の中の虫出てけ　（白木町）

イ．亥の子のうた

○　亥の子　亥の子　亥の子の晩に　（共通）

祝わん者は　角の生えたコッテ牛　モウモウ

帰りの道で重箱ひろて　開けてみれば　ほこほこ饅頭

にぎってみれば　重兵衛さんのキンタマ　モウモウ　（辺法寺町）

・ → 祝わん者は　しーわのしーわのしーわしわ　（辺法寺町の川南の集落）
・ → 祝わん者は角の生えたコッテ牛。ひぃふぅみぃよぅいつつでしょ　（東庄内）
・ → ここの嫁さん　新嫁さん　新餅　新藁　祝いましょ　（国府町西之城戸）
・ → ここの嫁さん　新嫁さん　新藁亥の子で祝たろか　（田村・長明寺町）
・ → 十五の夜に　はしに入れ　（辺法寺町の川北の集落）
・ → 新藁　新米（しんわら　しんごめ）祝いましょう　（田村町名越）
・ → 新藁　新もち祝いましょう　（辺法寺町（養子さんが入った家向け））
・ → たかやの坂で　すべって　ころんだ　（白木一色町）
・ → 餅つくものは大梅　小梅　じゃかたのじゃんめ　（菅内町）
・ → ボタモチせんおかぁ　（西庄内町南畑）
・ → ボタモチついて　やったりもろたり　おーやえどんご（又は　おーえーどんぼ）（伊船町野田・伊船町新田）
・ → ボタモチほい　（伊船・長沢）
・ → ボタモチやったりもろたり　おやりどんぼ　（伊船町野田・伊船町新田）

○　亥の子　亥の子　亥の子の晩に重箱ひろて　（共通）

開けてみたら　重兵衛さんおきんたま

・ → 開けてみれば　ほこほこまんじゅうが入っとった　祝っとくれ　（関町小野）
・ → 開けてみれば（又は　みたら）　ほこほこまんじゅう
・ →→ 握ってみたら　重兵衛さんのあかちんぼ　（木下町、芸濃町楠原（郡外））
→→ 握ってみれば　重兵衛さんのきんたま　（関町鷲山、白木町、関町会下、太岡寺町、和賀・天神、田茂町、井尻町、和田町、西冨田町、中冨田町山、国府町、甲斐町、汲川原町、広瀬町、川崎町、太森町太田、辺法寺町南、安坂山町坂本、芸濃町楠原（郡外））
・ →→ 握ってみれば　重兵衛さんのきんたま　ぶらんぶらん　（西庄内町北畑）
・ →→ 握ってみれば　重兵衛さんのきんたま　まっ黒けのけ　（国府町）
・ →→ 握ってみれば　重兵衛さんのどちんぼ　（白木町）

・ → 開けてみたら　ほこほこまんじゅうのくらいぬけ　（北畑（女））
・ → 開けてみたら　親父のきんたま　すっぽんぽん　（広瀬町、東庄内町）
・ → 開けてみたら　○○さんのきんたま　泥だらけ（○○には嫌いな爺さんの名）（山下町）
・ → 開けてみれば　重兵衛さんのきんたま　泥だらけ（又は砂だらけ）　（国府町）

・ → 開けてみれば　もくさんのきんたま　泥まるけ　（津賀町）

・a）亥の子　亥の子　亥の子の晩に重箱ひろて
開けてみれば（又は　みたら）　ほこほこまんじゅう
にぎってみれば　きんてさんのきんたま
もひとつ　つかしとくれ　よいよい
b）亥の子　亥の子　亥の子の晩に餅つくものは
おおうめ　こうめ　じゃかたのじゃんめ
よんべの風は荒くたい風で　がごけがてんぐらかって　えっさっさ
（阿野田町）

・ 亥の子　亥の子　亥の子の晩に　ボタモチひろて
？？　（深溝町）
・ 亥の子　亥の子　亥の子の晩に、
餅せんもんは　おうめに　こうめ　角の生えたじゃんめ
月夜の晩に？？？　（平田・弓削、甲斐）

・ 亥の子　亥の子　亥の子の晩はめでたいもんや
新藁亥の子（しんわらいのこ）で、祝いましょ。　（両尾町）
・ 亥の子　亥の子　亥の子餅つきゃれ
おうめ　こうめ　？？　（上加太）
・ 亥の子　亥の子　ここの嫁さん新嫁さん
新餅　新藁　祝いましょ　（土山町山女原（郡外））
・ 亥の子　亥の子　この頃この家大繁盛
新藁亥の子で祝いましょ　（安坂山町安楽）
・ 亥の子の晩に　ボタモチほい（何回も歌う）　（伊船町）
・ 亥の子　亥の子　嫁さんもろて
尻に糞をはそんでくっさいな
（菓子をもらうと）ええ嫁さん　ええ嫁さん（繰り返す）　（加佐登町）

○ <u>亥の子　亥の子　亥の子の晩にぼぼせんやつは</u>
行ってしゃね叩け　（住山町（青年団））
→ 石でしゃねこついて　塩でまるけてかーりかり　（白木町（青年団））
・ 亥の子　亥の子　亥の子の晩にぼぼせんかかは
石でしゃねこついて　塩でもんでこーりこり　（西庄内町北畑（青年団）

④ その他の歌

ア．痛けりゃイタチの糞つけよ

痛けりゃイタチの糞つけよ（痛いと泣いていると祖母がよく言った。）（白木町）

イ．イボイボうつれ

イボイボうつれ　（辺法寺町、住吉）

ウ．いもむしこおろころ

いもむし　こおろころ　（白木町）

エ．お月さん幾つ

○ おっ月さんいくつ　十三　七つ
まんだ年しゃ若いな　あの子産んで　この子産んで
だあれに抱かしょ　お万にだかしょ
お万はどこ行った　油買いに　茶買いに　（辺法寺町）

・ →→ お万はどこ行った　酒買いに　酢買いに
油屋の角で滑ってこけて　柿のへたひろて
銭かと思て　飴買いに走った。　（水沢野田町）

○ おっ月さんいくつ　十三　七つ
そりゃまだ若い　わかやの道で
猫が三匹寝ーとって（又は　ホオズキひろて）
帯こーてやろか　たすきこーてやろか
何にもいらん　猫の皮なとひっかぶれ　（白木町）

・ → そりゃまだ若い　わかやの道で
猫が三匹寝ーとって（又は　猫とカラスがけんかして）
猫はーよー起きよ　（白木町）

オ．大波小波

・ 大波　小波　かーぜが吹いたら　ドボン　（大久保町）
・ 大波　小波　かーぜが吹いたら　飛ばす　（水沢町）

カ．蛙釣りの歌

・ 蛙とろとろ　親の乳よりうーまいぞ　（白木町）
・ ガエルガエル　こっちの水は甘いぞ　あっちの水は辛いぞ　（不明）

キ．けんかの歌

・ ○○（村の名）のガキは　何食って育った　シラミ三升　ノミ三升　合わせて六升よう食ろた　（白木町他）
・ 「堂ケ山のガキは何食って暮らす、しらめ３じょう、米３じょう。けんかしょうに来い」と歌い、相手の姿が見えると、内部川を挟み、石のぶつけ合いをした。
（岸田町）

ク．げんべのかまたろ

昔　げんべのかまたろが　夜昼かけて熊野に参るとて
熊野の道で灯が消えて　とぼしてもとぼしてもとぼらんで
あおやま壊して　堂建てて　堂のぐるりに胡麻撒いて
胡麻仏の嫌いもの　油は仏のお身灯（おみあかし）
いちごれ　にごれ　さんごれ　さくら　（水沢野田町）

ケ．子どもと子どもがけんかして

子どもと子どもがけんかして　父さん母さん腹が立つ　（白木町）

コ．スズメがチュウチュウ鳴いている

スズメはチュウチュウ鳴いている　カラスはカアカア鳴いている

（白木町、辺法寺町）

サ．雀チュウチュウ忠三郎

雀チュウチュウ忠三郎　烏カアカア勘三郎　トンビは富山の薬売り　（白木町）

シ．そうだ村の村長さん

・ そーだ　そーだ　そーだ村の村長さんが
そーだ飲んで死んだそーだ　葬式まんじゅううまかった
そーだ　あんがはいってうまかったそーだ　（辺法寺町、住吉）

・ そーだ　そーだ　そーだ村の村長さんが
そーだ飲んで死んだそーだ　葬式まんじゅうでっかいそうだ　（石薬師町）

ス．高い山から谷底見れば

高い山から　谷底見れば　瓜やなすびの花盛りよ
はりわどんどんどん　これわどんどんどん　（白木町）

セ．タニシの歌

タツボ　タツボ　田の中の壺を　けっと　けっからかして
めんぼく　さいぼく　漆のたねやか　ゆやまか　ずんべらぼう　（西庄内町）

ソ．とっちん　かっちん　鍛冶屋の子

とっちん　かっちん　鍛冶屋の子
はだかで飛び出す　風呂屋の子　（白木町、石薬師町）

タ．鼻たこなーれ

鼻たこなーれ　米やすなーれ（鼻を親指と人差し指でつまんで引っ張りながら）

（不明）

チ．早起きの歌（仮称）

障子が明るくなってきた　早く起きぬと遅くなる
着物を着換え　帯を締め　手水をつかい　顔洗い　（不明）

ツ．屁こきゃ三つの徳がある

屁こきゃ三つの徳がある　おなかがすいて気が晴れて
人にはどんどん笑われて　（白木町）

テ．まいまいこんぼ

まいまいこんぼ　どーこんぼ
くるくる回って　目がもうて死んでくぞ　（白木町）

ト．まねしまんざい

まねしまんざい　こけまんざい　（石薬師町）

ナ．みかんきんかん

みかん　きんかん　なつみかん　（石薬師町）

ニ．不明

久兵衛さんキュ　田の畔歩いて　ガエル踏んでキュ　キュキュキュ

（東庄内町）

(3) 大人が使った歌

① 子守歌

ア．大寒、小寒

・ お一寒 こ一寒、山から小僧が飛んできた　（辺法寺町、中冨田町山、住吉）
・ お一寒 こ一寒、山から小僧が下りてきた　（国府町）
・ おーさむ こさぶ　マントがほしい　（上野町）

・ おーさぶ こさぶ　山に頭巾おいてきた（又は　置いてきて）（共通）
→とってこいとってこい　おれかぶる（又は　ひっかぶろ）　（東庄内町）
→われとて来い おれかぶる　（大久保町）

・ おーさむ こさむ　山にずっきん置いてきて
取りに行くのもさーむいし　ねーこの皮でもひっかぶれ　（布気町）

・ さーぶいさーぶい からかんじ　山へずっきん置いてきて
取ーりに行くのもさーぶいし　猫の皮なとかぶっとれ　（白木町）

・a）おーさむや おーさむや　雪がぱっぱか降ってきて
山へずっきんほってきた（又は　おいてきた）　われとてこい おれかぶる
ネコ（又は ウサギ）の皮なとひっかぶれ　おーさむや おーさむや
b）おーこわや おーこわや　山でオオカミ吠えだした
息せききって 命からがら にげてきた　？
？　おーこわや おーこわや　（川崎町）

・ おーさむや おーさむや　山へずっきんおいてきて（共通）
→取りに行くのもさーむいし　ネコの皮なとひっかぶれ　（両尾町平尾、安知本町）
→取りに行くのもさーむいし　ネコの耳（＝ネコヤナギの実）なとひっかぶれ
（小川町）

イ．クックードリ（＝キジバト）

クックードリかハクドリか、白米もてこいクックックー　（安知本町）

ウ．ねんねんころり

・ この子はいらんこ　裏の山にほったろか　（田村・長明寺）
・ ねんねんころいち　寝る子は育つ　（中庄町）
・ ねんねんころり　寝る子は育つ　（平野町）
・ ねんねんころりよ　おころりよ
坊やのお守はどこ行った　あの山越えて里行った　（三宅町（郡外））

② 地名のついた歌

ア．井尻芋食や　和田笑う　可哀（＝川合）そうにも海善寺

煽（＝小田）てやんす（る）な　和泉さん　（和田町）

イ．何でもくれくれトウミョウジ（北一色）
金玉ふらっとフーナンジ（府南寺（本郷））
油げ食いのサイラクジ（西楽寺（本郷））
ぶっとへをこくブッコウジ（仏光寺（平野）
けっつに手がないケイウンジ（慶運寺（西之城戸））　（国府新田（住吉））

ウ．山下　木下（このした）　縁の下　今晩するのはへその下　（神辺地区）

(4) 昔の風習や行事等

① 風祭（カザマツリ）

8月末に、大風が吹かないように祈る「カザマツリ（：風祭）」があった。
単に薬師さんにお参りする程度であったという。　（関町福徳（郡外））

② 乞食芝居

当時、小川町では演芸がよく行われ、特に雪の降る冬には寺の本堂で「乞食芝居」が行われたという。　（小川町）

③ 神社での藁・注連縄焼き（どんど焼き）

神社での12月末の藁焚きや1月初めの正月明けに行われる注連縄焼きについては、一般には「どんど焼き」と言われるが、一連の聴き取りの中で次の呼び方を採録し、当時は郡内でも地域や集落により少し異なって呼ばれたようである。

・とんと焼き、どんどん焼き

④ 年末の集まり

年末になると、守半纏（子守用半纏）を着て青年男女がある家に集まり、火鉢を囲んでトランプ等で遊んだ。　（関町久我）

⑤ 虫送り

・　松明を炊いて、鐘をたたいて「カンカンバーバー出てけ　田の中の虫出てけ」と子ども達が参加し唱っていった。　（白木町）
・　7月24日の天王さんの前の日に、大人が大きな松明を作り、火をつけ自分の田で焚いた。楽器で音をたて、子ども達は「ブーブー　チャンチャン」と呼び、ついて行った。　（水沢野田町）

⑥ 山の神

12月6日になると、子ども達が「山の神の藁おくれ、明日いらんで今日おくれ」と言いながら、各農家を回り、藁を集めた。7日に役の大人が、集落内3か所に分かれてそれを燃やした。水でこねた団子を持ち寄って、藁を焚いた火で焼き、小さいのは村の神様にあげて、大きいのは家で食べた。　（三寺町）

(5) 様々な諺や表現

- 「あんた物知り　わしゃブタの尻」（石薬師町）
- 「伊勢の高野尾に名所がござる。寺が七か寺、風呂屋が七つ。まだもござるに池七つ」（高野尾町（郡外））
- 「伊勢の高野尾の大八車。夜にしかけて、朝のりかけて、おいが良ければ朝も乗る」（高野尾町（郡外））
- 「一里亀山、二里神戸、三里坂本、四里（より）白子　五里五兵衛さんの尻の穴」と首の付け根の背骨のところから一つずつ、人差し指でくるくるとまわしながらくすぐり、尻の方へ降りていった。（田村・長明寺町）
- いも、にんじん、さんしょう、しそ、ごぼう、どんぐり、ななくさ、？、くわい、どんがらし（マリつきでの十の数え方）（芸濃町楠原(郡外)）
- 「地獄極楽、閻魔さんの前に叱られて、もう一つおまけにどっこいしょ」と言って尻を叩いた。（安坂山町安楽）
- 「娑婆はいろいろ タコはいぼいぼ」（石薬師町）
- 「ズズメの寄り合いチューチューバタバタ。午前のうちにわれ、早よ、どきゃーれや」（大久保町）
- 「どんど焼きで焼いた餅を残しておき、夏に食べると、雷に打たれない」（水沢町（郡外））
- 「ひにふにみんだらこいて、夜も昼もあっかい頭巾かぶりと（魚売りが鰯を勘定する時の数え歌）」（野村・南野）
- 「ぼんさんがへをこいた。今こいた屁はだーれがこいたか、ぷっとこせ。おーやにかずけて子がこいた」（庄野町）